

XenosagaI・II - 第三話 別離 - Abschied -

@: 駆逐艦タケヨリ、通信途絶！

ナーガ艦橋に、大型グノーシスの激突を確認！ 指揮系統が沈黙しました！

モリヤマ艦長: A.G.W.S. 隊はどうなっている！

@: 直衛部隊の損耗は 30% に達しました！ また、二箇所で防衛線が突破されています！

艦長、本艦内部にグノーシス郡が侵入！ 推定 50 体！

モリヤマ艦長: もうーヒルベルトエフェクトがなくては、有効な打撃が与えられん。

百式観測器はどうしたか！

@: 現在、ブリッジへ向かっています！

モリヤマ艦長: 急がせろ！

??? : くくくーたえエミュレーターとはいえ、ゾハルはゾハルだ。

貴様らには過ぎた玩具であったことを思い知るがいい。グノーシスに貪られながらな！

ひゃあっはははは！

別 - Abschied - 離

百式: ーブリッジへ行きます。はやく広域ヒルベルトを発動させないとー

シオン: ！

(そうか、ーKOS-MOS と違って、百式のヒルベルトは接続時間も有効範囲も制限されている。

ブリッジでアンブリファイアーに接続しないと、艦隊がグノーシスに反撃することもできないー

KOS-MOS のことは気になるけど、いまは彼女を、ブリッジに急がせないとー！)

わかったわ、私についてきて。

百式：ヒルベルトエフェクト発動！

シオン：近距離での戦闘なら、これで大丈夫。ミュキーあなたの発明品、使わせてもらうわよ！

百式：！

シオン：どうしたの、アイ！ ブリッジまでもう少しよ！

百式：――シオン、危ない！

シオン！！

モリヤマ艦長『――総員に告げる。

現在、艦内各所にてグノーシスの侵攻を阻むことが困難となった。

遺憾ながら、本艦を放棄する。民間人、非戦闘員は所定の手順に従い、退避を開始せよ。

戦闘員、並びにレアリエンはその支援を最優先とせよ。

なお、艦隊司令部機能はオオゲツに移管する。』

レアリエン：2分隊と通信が途絶しました！

レアリエン：グノーシス郡をここで食い止めるぞ。艦への被害よりも、敵殲滅を優先せよ。

レアリエン：了解！ 兵装リミッター、解除します。

バージル：手足もげたぐらいじゃ死なねえとはいえ生身で応戦たあ、勇ましくって涙出てくるぜ。くくく――

まあ、せいぜい盾代わりにでもさせてもらうか。

レアリエン：前方200、移動物体の反応あり！

バージル：おっしゃ、無駄弾使わずに撃ちまくれ！

シオン：うーん――

アレックス：お目覚めですか？

シオン：あなたは――

アレックス：状況をご説明します。

現在、ヴォークリンデは侵入したグノーシスにより、深刻な被害を受けています。

ブリッジ、機関部の損傷はありませんが、司令部は艦の放棄を決定しました。

私はあなたを、脱出ポッドのところへお連れする途上です。

シオン：それよりも、私をヴェクター管理下の開発室へ――

アレックス：御社の技術者の方々は、12分前にすでに退艦済みです。

人数までは確認できませんが、専用に割り当てられたポッドの射出が記録されています。

シオン：（アレンくんたちは、もう脱出した。じゃあ、KOS-MOSは――？）

！ そうだ、ねえ、アレックス。私がいた場所に、百式が――

アレックス：残念ながら、あなたを救出したブロックに、他の生体反応はありませんでした。

シオン：そんな！

（アイー私をかばって――）

アレックス：――ヒルベルトエフェクトなしでは有効な攻撃は不可能です。撤退してください、援護します！

シオン：慎重に行動しないとダメね――

バージル：――よし、片づけたな。これで全部か！

レアリエン：半径100以内からは、反応消えました。

バージル：非戦闘員の退避は！

レアリエン：あと300秒で完了します！

バージル：おっしゃ、あと5分だけここを護るぞ！ その後は順次撤退だ！ いいか、引き際を見失うなよ！

ホルンスト：ホルンスト了解です！

レスター：レスター了解！

レアリエン：バージル中尉！ 移動物体の反応あり、前方200圏内に侵入してきました！

バージル：ちっ、もう来やがったか！ お出迎えの準備だ！

ちっ、のろのろと――こいつ、生身の人間とおっかけっこしても、勝てねえんじゃねえのか。

アレックス：この先に、脱出ポッドが残っているはずですよ！

シオン：きゃああっ！

バージル：待てっ、人間だ！

シオン：バージルー中尉？

バージル：ちくしょう、てめえ、この――なにしに來やがった！

シオン：危ないじゃないですか、弾が当たったらどうするんです！

バージル：どうするんです、じゃねえ！ フラフラと紛らわしい動きしやがって、グノーシスかと思ったじゃねえか！

シオン：私だっていろいろ大変なんです！ なのに途中でグノーシスに襲われてー無理言わないでください。

バージル：もういい、向こうに脱出ポッドがある。ごちゃごちゃ言っていないで、はやく行け！

レアリエン：！ これは！ バージル中尉っ！

バージル：なんだ、でけえ声だしやがってーおい、レスター、後ろだ！

レスター：ーえ？

バージル：レスタァァァッ！

ひるむな！ ホルンスト！

ホルンスト：た、隊長ー

バージル：ホルンストォッ！

ーーーぐっ！ 撤退するぞ、ついてこい！

シオン：撤退って、どこへー

バージル：脱出ポッドに決まってるだろ！

貴様ら民間人には、さっさと退避してもらわねえと、邪魔なんだよ！

先を急ぐぞ！

ブリッジ

オペレーター：ベルタ区画沈黙、防空網稼働率 20%に低下！

副長：射撃管制官、なにをやっている！ 敵母艦を沈められんのか！

オペレーター：無理です、こう近くては艦砲が撃てません！

モリヤマ艦長：もういい、副長。戦闘員も順次、退艦をはじめている。我々もオオゲツに移るぞ。

@：リアクタールームに敵部隊侵入！

炉心緊急閉鎖、バイパスを補機に回せ！

@：A.G.W.S. 消耗率、70%を超えました！

@：オオゲツ、沈黙！

モリヤマ艦長：なにっ、オオゲツが！

オペレーター：艦長、本艦の周囲が包囲されつつあります！

副長：艦長、やはり噂はー

モリヤマ艦長：ああ、グノーシスめ、あの物体を、ゾハルを狙っているのか。

オペレーター：左舷論理推進器[ロジカルドライブ]損傷、F 区画に火災発生！

モリヤマ艦長：もうー調査隊に、中佐に連絡しろ！

副長：はっ、なんと！

モリヤマ艦長：本艦の命運はつきた。貴官は独自の判断で、任務を遂行せよ、とー
ーもっとも、言われるまでもないだろうが。

だが、これで敵前逃亡の汚名からは逃れられるはずだ。

オペレーター：最終防衛ライン、大型グノーシスに突破されました！ 敵主力、本艦に向かってきます！

モリヤマ艦長：いかん！

副長：艦長、脱出をー

モリヤマ艦長：もう間に合わー

格納庫

アンドリュー：ブリッジがやられただと！

少佐：はっ、最後の連絡はー『独自の判断で、任務を遂行せよ』とー

アンドリュー：ーそうか。

ー作業はどうなっている！

作業員：フィールドのメインジェネレーターとこのブロックのサブリアクターとを直結させました。

3分間ですが、指示通りの出力を出せます！

ロジカルドライブへのバイパス、確保しました！ こちらの端末で制御できます。

アンドリュー：それでいい、上出来だ。

少佐：無茶ですぞ、中佐！

このブロックごとパージし、ゲートジャンプを敢行するなど自殺行為！

防護フィールドなしでハイパースペースに入れば、生身の人間がどうなるかー

中佐もご存知のはずです！

アンドリュー：ゾハル[こいつ]が司令のもとに届けばいい。あと数分で次のコラムの影響下に入る。

時間がないー貴様らはポッドで脱出しろ。

少佐：中佐、外にはグノーシスの大群がおるのですよ。脱出しても生存できる確率は皆無です。

ならば、我々も中佐とともにー

アンドリュー：聞け、グノーシスの存在など、取るに足りん！

”あれ”が目覚めることに比べれば、遥かにマシだっ！

いいか、救命ポッドを射出したら即座にDIG-βを8mg皮下注射しろ。

一時的に仮死状態となるが、それでグノーシスの関心はそらせる。

数時間すれば、司令の増援も来る。貴様等は生きろ――それで私の証も立てられる。

少佐：中佐――

アンドリュース：――急げよ。

――

バージル：アホッ、D.S.S.S. もなしに固着してねぇグノーシスに当たるか！ 引っ込んでろ！

ちくしょうっ、いったい何匹入りこみやがったんだ。キリがねぇっ！」

ちいっ！

アレックス：――シオンさん、この先のE区画を抜けるまで走ってください。ライフポッドがあります。

シオン：あなたは――！？

アレックス：私はここで応戦します、だからその隙にはやく――

シオン：だ、だめよ。私だけ逃げるなんてできない。みんなで一緒に帰らなきゃ！

バージル：こいつ――A.G.W.S. と融合したのか！

ぐううっ！

シオン：バージル中尉！

アレックス：シオンさん、急いで！ なんのために僕らが創られたのか、思い出してください！

シオン：だって――！

アレックス：いいんです、そのために生まれてきたんですから。

バージル：そこのレアリエン――なに遊んでやがる――てめえも――応戦しろ。

アレックス：申しわけありません、中尉！

バージル：くそっ、このままじゃ――なにか、なにか奴らを食い止める方法は――

そうか！

シオン：私のコネクションギアを！

バージル：慌てなさんなって、すぐ返してやるよ。

よお、あのレアリエン――ベースは508型だったよな、たしか。

シオン：だったらどうなんです！

バージル：かれこれ十四年前になるか、旧ミルチアで戦ってた頃の話だ。

俺は”ある目的”のために、戦場で奴らを何体もバラした事があってな。

いやぁ、難儀したぜ。なんせ、ハードとソフトの双方からプロテクトがかかってたからな。

シオン：プロテクトーーって、中尉、その DME 中毒！ やっぱり彼等の中枢組織を！

バージル：ご明察ーー”美味かった”ぜ。

シオン：酷いーーーー

バージル：そんな時に知ったんだけどよ。奴ら、便利な機能がついてるよな。

シオン：まさか、制御コードのことを！？

バージル：そうさ、木偶人形[レアリエン]もこうすれば、有効な使い道があるってもんだ！

アレックス：あ、身体がーー

シオン：やめて、彼らをなんだと思ってるんですか！ これは明らかに人権ーー

バージル：ーー侵害ってか？ そりゃ平時のことだろうが。ミルチア憲章なら俺も知ってるぜ。

ミルチア憲章第四条十三項ーーーー戦闘用レアリエンは、有事、または暴走時の危機回避手段として、遠隔端末によるその行動の抑制と自爆システムの設置を義務づけるものとする。

また、この履行は現場指揮官の判断によって行えるものとするーーだったか。

シオン：ーーーー

バージル：つまり、いまがその時！ 指揮者[コンダクター]は俺だ！ ”楽団員”は有効活用させて戴く！

シオン：やめて！ あなたには彼の生命活動を停止させる権利なんてないわ！

ましてや自爆させるなんて、絶対に赦せない！

バージル：だからどうした。なら訊くが、あんたこそ、なぜこの機能を削除していない？

ファクトリーロードされてたって技術者のあんたなら、外せるはずだぜ。

情け深いあんたがちょいちょいって弄ってやりゃあ、奴らは晴れて自由の身だ。なのにやらないーーなぜだ？

シオン：それはーー社の規約がーー

バージル：そう、規約だ。つまるところ、それに縛られているお前さんも、この俺と同じ！

奴らにその存在意義を与えてやる立場にいるってことだ。違うかっ！！

シオン：私はーー

バージル：造物と被造物の関係ってのは、そういうもんだ。違うか？ 違わねえだろ。

なら与えてやろうじゃねえか！ 奴らに存在意義[いきたあかし]ってもんをさ！！

シオン：ーーーー！

あああーーーー

バージル：へっへへへへーー

なにっ！？

うおおおおっ。

シオン： きゃああっ！
ああ————
そっか——私——死ぬのね——
なんで——こ——んな——ところに——女の子が——
???： ————
シオン： どこかで——逢った——っけ——危——ないよ——早——く——逃げな——いと———
だめだ———声———出ないや———ま———いいか———
——どうせ———私———死ぬんだし———
???： ————
シオン： ——！
KOS-MOS！
KOS-MOS： ——最優先保護対象の生存を確認。
これより、敵を殲滅します。
シオン： ——まさか！
KOS-MOS： ヒルベルトエフェクト、展開します。

【 戦闘 VS サイクロップス 】

アレン： 主任、ご無事でしたかあっ！
シオン： ア、アレンくん、どうしてここに——脱出したんじゃ？
アレン： ええ、他のみんなは練習艇で先に——KOS-MOS が脱出させてくれたんです。
シオン： KOS-MOS が！
アレン： 僕は残って主任のことを——
バージル： おい、あいつはなんだ！ なんて攻撃が当たる！
アレン： 彼女は KOS-MOS——我が社が開発した対グノーシス用兵器です。
KOS-MOS はヒルベルトエフェクトでグノーシスを固着できるんです。
バージル： 百式レアリエンと、同じ機能か——。
シオン： そんな——KOS-MOS が勝手に起動するなんて——これじゃ、あの時と同じ——
アレン： すごい———
KOS-MOS： ——シオン。

シオン： な、なに？

KOS-MOS： 第一格納庫に向かいます。グノーシスの狙いは 99.998%の確立で格納庫に保管されている物体です。

私に課せられている任務は、その物体の確認・保全と、あなたたちベクター関係者の保護です。

シオン： 任務っていったい誰の――

KOS-MOS： 格納庫に第二層にライフポッドがあります。あなた方はそれで脱出してください。

シオン： ちょっと KOS-MOS！

KOS-MOS： では行きましょう。

シオン： ――迷ってる場合じゃない、か。

バージル： ちっ。

格納庫

アンドリュー： くそっ、こんな時に――私には証すら立てられないのか！

グノーシス！

おい、こっちだ！ こっちに来い！

やめろ、それは私の――！

あああ――――

私の――私の証は――

シオン： 中佐！

アンドリュー： ―――――！

（あのアンドロイドは！

間違いない、二年前のアーキタイプとディテールは異なっているが――

KOS-MOS！ 目覚めたのか、あいつが！）

シオン： 中佐！ 私たちはライフポッドで脱出します。中佐もはやく！

バージル： こいこいこいこい！ 食らえ、この野郎！

固着さえされてりゃ、てめえらごときっ！！

この野郎！

KOS-MOS： 保護対象に敵接近――

バージル： ぐはあっ！

シオン： バージル中尉！

バージル： フェー――フェブ――

シオン：（フェー—人の名前？）

KOS-MOS：この艦はもうじき沈みます。シオン、急いでください。ライフポッドはこちらです。

シオン：待ちなさい、KOS-MOS！

KOS-MOS！—あなた、自分がいまなにをしたか、わかっているの！

KOS-MOS：私に課せられた任務は、あなたたち—ヴェクター関係者の保護です。

軍関係者まで護れという指示は受けていません。

シオン：馬鹿なこと言わないで！ だからって人を殺してもいいってことにはならないのよ！

なぜバージル中尉ごと撃ったの！？ 彼を犠牲にしなくても、あなたの力なら———

KOS-MOS：あの時、バージル中尉は私の射撃軸線上にいました。もし私が射撃軸をずらし、

直接あなたの護衛に回っていたとすれば一時的に十二時方向の邀撃戦力が30%以下に低下していたはずです。

それに対して、中尉が死亡することによる戦力の低下は0.2%以下に過ぎません。

私はあなたを生還させるために、より確実な選択をただけです。

それにポッドの定員は二人—誰と誰を優先させるかは明白でしょう。

シオン：そんな、酷すぎる—あなたには良心ってものがないの———？

KOS-MOS：シオン、私は”人間”ではありません。ただの”兵器”です。それはあなたがいちばんよく、ご存知のはずですが。

どうするのです、乗るのですか。乗らないのですか。

彼の死を悼む気持ちがあるのなら、生きた方が賢明です。

でないと、彼は無駄死にしたことになりますよ。

アレン：主任—さあ、行きましょう。

シオン：———

アレン：グ、グノーシス！

【 戦闘 VS ミノタウロス 】

KOS-MOS：ヴォークリンデ、轟沈します。シオン、脱出を急いでください！

—

シオン：みんな、死んでしまった—みんなが———

アレン：主任——

シオン：なぜいつも、みんな——

こんな思いはもうしたくない――誰にも死んでほしくない――二年前、そう思ったのに――
アレン：――――

アンドリュー：（なぜ、私は生き残ってしまったのだ。――証も立てられずに、おめおめと――）

KOS-MOS：――はい、艦内データベースに残された情報から判断する限り、
対象物はやはり、オリジナルではありませんでした。エミュレーターです。

？？？『――――』

KOS-MOS：いえ、グノーシスはゲートインを敢行――
ハイパースペースへ離脱したため、追跡は不可能です。

？？？『――――』

KOS-MOS：了解しました。至急、現宙域を離脱。当初の計画通り、第二ミルチアへ向かいます。

？？？『――――』